

一般社団法人かわたな夢キッズ

令和 5 年度事業報告書



令和 5 年度 事業報告書

(令和 5 年 8 月 22 日から令和 6 年 6 月 30 日まで)

一般社団法人 かわたな夢キッズ

1) 事業の成果 (概要)

一般社団法人かわたな夢キッズ (以下、当法人) は、主に東彼杵郡川棚町とその周辺に居住する不登校・引きこもり児童とその家族を支援することを主な目的として設立し、プロジェクトメンバーが中心となってイベントの企画や親の会を実施するなど、自分たちでできる範囲で地域の社会課題の解決に取り組んできた。

その中で、内的要因 (本人の発達特性など) と外的要因 (貧困・ひとり親・ヤングケアラー等の家庭環境) が複雑に絡み合っているこの問題を解決していくためには「不登校・ひきこもり児童を広く受け入れることができる包括的な拠点づくり」の重要性を実感。ハード・ソフトの両面で当事者とその保護者が安心して心の土台を育めるようなサポートが行える施設を開所するため、「独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 令和 5 年度補正予算」に応募することとなった。

不登校やひきこもりの子どもたちが安心して通える居場所という側面だけでなく、地域の課題を包括的に捉えて互いに助け合える地域をつくるためのハブとしての機能が評価され、同助成金に採択。令和 6 年 6 月 7 日「自由楽校 ゆめまある」をオープンした。

地域まるごとを学びの場と捉え、子どもたちを取り巻く環境の包容力を高めることで、将来子どもたちが「この町で育ってよかった!」と感じ、そのポジティブな心が循環していく仕組みづくりを目指し、活動を続けている。

6 月 30 日現在、プロジェクトメンバーや利用者など、活動メンバーは 45 名、賛助会員やボランティアとして活動を支えてくださっている方は 35 名、総勢 80 名、5 歳～70 歳までが様々な形で活動に関わっている。

2) 事業ごとの実績と課題

①自由楽校 ゆめまある

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 令和 5 年度補正予算の助成を受けて実施している当法人の核となる第三の居場所事業。川棚町および周辺市町に住む“学校に行かない・行けない子どもたち”を対象とした地域の中の居場所である。

自由楽校ゆめまあるでは子どもひとりひとりの心理的安全性を守りながら心地よく共に過ごす空間を提供。また、子どもたちの「やりたい」気持ちに応じてさまざまな学習環境や体験活動のリソースを備えることで、個々の状況に応じた支援を行なっている。

また、空間作りや食事作りも子どもたちの意見を取り入れながら共に行なうことで、利用者同士やスタッフをはじめとする大人とのコミュニケーションの機会も生まれ、個々のペースで楽しみながら人との繋がりや社会性を身につけられる場となっている。

加えて、地域や学校などとの連携も行ない、地域×居場所のチカラで子どもがのびのびと生きてゆける包容力のある環境をつくることも大きなミッションのひとつ。郡部や離島地域など支援の届きにくい地域へのオンライン支援も視野に入れて 6 月 7 日に開所した。

■自由楽校 ゆめまある利用実績

日時	内容	利用者数	保護者数
5/26	事前見学会&説明会	1	7
6/4～6/6	体験会	22	9
6/7～6/31	開所（13日間）	96	21

※利用者延べ119名／保護者延べ37名

■参考資料

ご挨拶



代表理事
荒瀬 奈穂子（なお）

ほっとできる場所、ワクワクすること、人との繋がりが生きる力になると信じています。学校と家だけではなく地域の中にも居場所があることで、子どもたちはより人のあたたかさを身近に感じ、心豊かに育ってゆく。そんな環境を願ひ生れた「ゆめまある」です。

プロフィール

1983年 川棚町生まれ
小学校5.6年のときに不登校に
2005年 日本福祉大学 社会福祉学部卒業
その後約10年間パフォーマーとして
全国世界各地で活躍
2023年 我が子の不登校をきっかけに
居場所作りプロジェクトを立ち上げる
同年秋に（一社）かわたな夢キッズとして法人化
2024年 自由楽校「ゆめまある」開所

開所日時

月	火	水	木	金	土	日
/	○	○	/	○	○	/

10:00～15:00

アクセス



川棚駅より徒歩10分
百津バス停より徒歩2分

☎ 090-5022-2789
🏠 川棚町百津郷41-69

自由楽校 ゆめまある



学校でも家でもない
不登校の子のための
居場所

理念

- ・心の居場所となれるような関係性構築をめざします
- ・比べず、焦らず、評価せず、その子の個性やベース、心の状態を大切にします
- ・子ども自身のもつ力を引き出しながら、長期的な目線で社会的自立や幸せをめざします

夢のような間がある居場所

ゆめまある

時間 時間がたっぷりあるよ さあなにしよう？
空間 落ち着く空間 楽しい空間 一緒につくろう
仲間 1人じゃない 支えあえる仲間がいるよ
すき間 すき間があれば窮屈じゃない 人生のすき間を楽しもう
瞬間 ほっとひと息つける瞬間 あっと驚く瞬間にこっと笑える瞬間に出会えるよ

利用について

- 利用料 月額10,000円／スポット利用1日2,000円
※別途入会金6,000円（夢キッズ賛助会費、保険料、事務手数料として）
- 対象 不登校もしくは登校に不安や困難を抱える小学生～高校生
- 昼食 ご利用のお子さまには無料にて提供
※アレルギー対応はしていません
- スタッフ 不登校理解のある当事者ママや保育士など个性的であたたかいメンバーと地域のボランティアさんと運営します



過ごし方

- ・保護者同伴でもご利用できます
- ・決まったカリキュラムはありません
自分の時間を大切にしても、誰かと過ごしてもOK！
遊びも学びもやりたいことは何でもやってみよう！
- ・お子さまの希望に応じて、昼食作りや地域資源を活かした体験活動、アート教室や裁縫教室、学校と繋いでのリモート学習などにも取り組むことができます

かわたな夢キッズについて

主な取り組み

- ・自由楽校「ゆめまある」の運営
- ・利用者への食事支援
- ・親の会「おひさま」毎月開催
- ・親子の会（体験活動）毎月開催
- ・情報誌発行
- ・講演会開催など



公式サイト

Instagram

②親子の会

家族以外の他人との接点を持つ機会が少ない学校に行かない・行けない子どもたちに対して、他者とのコミュニケーション機会を創出しつつ、さまざまなことに興味を持ってもらえるよう月に一度イベント形式で実施。

クリスマス会や餅つき、焚き火やいちご狩りといった季節行事のほか、遠足、キャンプ、絵付け体験など地域の資源を活かした活動を行った。

父親や兄弟兄の参加も多く、家族のコミュニケーションや仲間との助け合いによって一歩踏み出す機会創出にもなっている。

実施日	内容	参加人数
8/22	遠足（長崎市 九州新幹線体験）	5
10/14	川棚百縁翔店街 子どもコーナー（輪投げ）出店	8
11/11	川小まつり ダンボールめいろ制作	7
12/17	クリスマス会	14
1/21	餅つき	10
2/11	焚き火とアート会（川棚町 教育キャンプ場）	19
3/24	イベント制作物作成（大崎さくら祭り／Earth day）	9
4/24	遠足（佐賀県立宇宙科学館 ゆめぎんが）	7
5/4、5	キャンプ（川棚町 大崎オートキャンプ場）	16
6/4	いちご狩り（イチゴ農家様ご協力）	15
6/23	陶器絵付け体験（一級技能士指導）	17

※延べ127名

その他地域活動団体とのビーチクリーンなどにも親子で参加している。

③親の会

不登校や引きこもり子どもを抱える保護者を対象にした月に一度の茶話会。当事者同士なのでお互いに悩みを話すことで共感しあえることも多く、参加者からは「孤独感から解放されました」「ここで気持ちを整理することで子どもとの関係性が良くなりました」といった声が寄せられており、地域で暮らす不登校・引きこもりや家庭のサポートに寄与できたと考えている。

その一方で開催告知をしたものの参加者が集まらなかった実施回もあったことから、周知方法や親子の会と同日に開催、時間帯や内容の変更など参加しやすい工夫を取り入れながら、課題を改善できるよう取り組みを進めているところである。次年度は親の会便りを発行し、親の声を教育関係者や地域に届ける役割も担う予定。

講師：山北真由美／アドバイザー：山下照子、荒瀬千恵子／参考：不登校新聞、各種研修資料等

実施日	8/20	10/9	11/26	12/17	1/21	2/11	3/17	4/14	5/12	6/16
参加人数	8	4	3	9	5	9	4	6	7	5

※延べ60名

④応援BOX

学校への登校に不安や困難のあるご家庭への情報提供と孤独を感じさせないための応援BOX。BOXに同封する文部科学省の「保護者への情報提供様式」や居場所のリーフレットを作成し、送付先の洗い出しを目的として学校配布型アンケートを作成したが、実際の配布は不登校斡旋とみられる懸念点から保留中である。

そのため、形を変えて抽選応募形式のチラシを作成し、講演会やイベントなどで配布を行なっている。今後事業を実行できるよう、引き続き創意工夫を行ない、不登校や行き渋りのあるご家庭と繋がっていききたい。

⑤ダンボールめいろ等による団体のPR活動

当法人は設立1年目ということもあり、川棚町民及び町内の企業・行政機関・団体をはじめとする地域の方々に活動の周知を図り、理解や協力を求めるため、さまざまな地域のイベントに「ダンボールめいろ」など独自の企画を持ち込み参加した。

ダンボールめいろの制作にはプロジェクトメンバーはもちろん、会員の子どもたちも積極的に参加。自分たちが作った迷路でたくさんの子どもたちが遊んでいる姿を見て、子どもたちも自分の可能性を信じて全力で楽しむきっかけになったのではないかと感じた。

実施日	イベント名	内容	メンバー数	体験人数	寄付金額
8/14 (※法人化前)	かわたな夏まつり	ダンボールめいろ 子ども商店	21	274	32,600
10/14	百縁翔店街	輪投げ	8	120	12,000
11/22	川小まつり	ダンボールめいろ	7	228	22,899
3/31	大崎さくら祭り	ダンボールめいろ	14	138	13,880
4/20・21	Earth Day	ダンボール工作コーナー	9	80	5,500

※参加メンバー延べ59名／一般体験人数延べ840名／寄付金額合計86,879円

⑥ドコデモこども食堂

一般社団法人明日へのチカラが行なう「ドコデモこども食堂」の提携団体として、川棚町と近隣地域の飲食店(4店舗)との連携を図り、必要な家庭に飲食チケットの配布を行なっている。

不登校・貧困家庭支援の一環として、昼食づくりの負担軽減や親子のコミュニケーション機会の創出に役立っている。

⑦子ども支援者のための不登校理解講座主催

【日時】9月8日【場所】川棚町中央公民館

【後援】川棚町教育委員会・NPO法人フリースペースふきのとう

佐世保市のNPO「フリースペースふきのとう」代表の山北真由美さんを講師に招いて開催した、子どもの教育・福祉に関わる方や不登校理解を深めたい方を対象にした講座。教育行政関係者、教員、議員、民生委員、主任児童員、保育士、そして周りに不登校のお子さんがいらっしゃる方など東彼3町から30名を超える皆さんに参加していただいた。

当初は講義 1 時間、質疑応答 1 時間の予定だったが、不登校について学びたいという意欲の高い参加者が多く、2 時間近く質疑応答が行われ、不登校に真剣に向き合う地域の姿に非常に胸が震えたひとときだった。

今後も定期的に学びの場や情報交換の場を設けていきたいと考えている。

⑧「第 25 回 登校拒否・不登校問題 全国の集い in 京都」参加

登校拒否・不登校問題全国連絡会が主催する「第 25 回 登校拒否・不登校問題 全国の集い in 京都」(10 月 7 日・8 日／ガレリアかめおか) に当法人代表理事の荒瀬奈穂子が出席。立命館大学名誉教授・高垣 忠一郎氏の基調講演をはじめ基礎講座や分科会などに参加し、不登校児やその保護者との寄り添い方を学ぶことができた。

また全国各地の不登校支援を行っている団体の関係者と交流することにより、今後の情報交換や法人運営のアドバイス等をいただけるような関係性を築くことができた。

⑨「子どもサミット」及び「登校拒否・ひきこもり問題 長崎県のつどい」参加

NPO 法人フリースペースふきのとうが主催する「子どもサミット (6/1)」及び「登校拒否・ひきこもり問題 長崎県のつどい (6/2)」に代表理事・荒瀬奈穂子が運営協力として参加。

1 日目の「子どもサミット」には当団体からも中学生が当事者として登壇し、参加者の心に響く講演を行なった。

2 日目の「登校拒否・ひきこもり問題 長崎県のつどい」では居場所についての分科会において荒瀬がファシリテーターを任されるなど、長崎県内の他団体からもこの 1 年の活動を高く評価していただいた。

3) 助成金に関する取り組み

■助成金申請に関する取り組み

日時	内容	参加者
8/30～9/27	助成金講座 (全 6 回)	代表荒瀬、他会員 2 名
10/3～11/7	NPO 会計セミナー (全 3 回)	代表荒瀬、会計富永、監査山下

■独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 令和 5 年度補正予算の採択概要

交付決定日	事業名	助成額
5/11	どんな子にも、安心の居場所と豊かな育ちの環境をつくる事業	6,893,000 円

■2024 年度ララ元気ねっと 地域活動補助金 (※親子の会にのみ活用)

交付決定日	事業名	助成額
4/11	不登校、ひきこもり、貧困、ヤングケアラーなど社会問題を抱える子どもと親の居場所づくり事業	24,000 円

4) メディア掲載について

①Instagram かわたなオフィシャル (5/24 付)

かわたなびととして代表理事の荒瀬奈穂子を取り上げられ、『ゆめまある』が紹介された。

②長崎新聞朝刊 (5/26 付)

川棚町に初の民間フリースクールとして『ゆめまある』が紹介された。

③月刊はなはな 6月号 (5/25 付)

FLOWER STORYのコーナーで代表理事の荒瀬奈穂子を取り上げられ、『ゆめまある』が紹介された。

④広報かわたな 7月号 (6/25 付)

スポットライトのコーナーで代表理事の荒瀬奈穂子を取り上げられ、『ゆめまある』が紹介された。

①



②



③



④



5) 会員・利用者数

正会員 : 9 人

賛助会員 : 2 人

親の会会員 : 7 人

(会員の入会1期目については、一般的な年度と合わせるため、4月～6月入会分は次年度に含む)

ゆめまある利用登録者 : 17 人

6) 利用者の声 (アンケートより抜粋)

●『ゆめまある』で叶っていると思うこと ※9割以上が○をつけたもの

子どもの居場所(安心できる場所)／友達関係／相談相手／昼食提供／体験活動

●お子さまの変化

- ・初めてのことにチャレンジしようという気持ちが出てきた。
- ・意欲的に行きたい場所ができた。
- ・「早くゆめまあるに行きたい！みんなに会いたい！」と毎日のように言っている。
- ・ひきこもり状態からほぼ毎日外に出れるようになった。
- ・居場所ができたことで笑顔が増え、前向きな気持ちで毎日を過ごせるようになった。
- ・年上の子に可愛がられ、同世代と遊び、年下の子のお世話をし、様々な経験が心を豊かにしてくれている。
- ・他の子の影響と心の安定で靴を並べる、お皿をさげる、挨拶を交わすことを自らやるようになった。
- ・不登校を悲観したり劣等感を抱いたりしなくなった。
- ・朝、自分で起きれるようになった。
- ・友達との折り合いがつかなくても気持ちの切り替えが上手になった。
- ・学習意欲がわいた。
- ・行く場所、認めてもらえる場所ができたことで自信に繋がっている。
- ・母と定期的に通うことで、少しずつ慣れることができ、家族以外の人と親しく接することも出来るようになった。
- ・習い事のキャンプにも不安を口にせず行くことができ、楽しめた。
- ・同じことをしていいと言われても学校には足が向かなかったが、ゆめまあるには自らすすんで「行く」と言う。慣れるのが早かった。
- ・友達が増えて楽しく通えている。
- ・チャレンジ精神が出てきて、実験や体験活動も嫌がることなくできていた。
- ・人に頼りにされたり人のために行動することに喜びを感じていた。
- ・少しずつ精神面で安定が見られた。
- ・友達の話やゆめまあるでの出来事をよく話してくれるようになった。
- ・イベントにすすんで行くタイプではなかったが、役割があることで行く目的ができ、楽しく充実したイベントに感じていた。
- ・以前は「友達が居ない」と嘆いていたが、ゆめまあるでたくさんの友達ができ、自己肯定感も上がったように感じる。

●保護者の気持ちや生活の変化

- ・付き添い登校に疲れ、子どもと共に自分も不安から睡眠がとれていなかったが、ゆめまあるに通うようになり子ども自身が楽しんで通っている姿を見たら気持ちが軽くなり、眠れるようになり、気持ちが安定した。
- ・平日の仕事が再開できた
- ・一人で留守番させるのが不安だったが、ゆめまあるに行ってる日は仕事でも安心感がある。
- ・家族以外の人との繋がりができて安心した。
- ・楽しく過ごせる場所ができて嬉しい。
- ・子どもと一緒に楽しめることが増えて嬉しい。
- ・家で子どもとずっといてマンネリ化していたので、通ってくれる場所ができて気が楽になった。
- ・親も自分の時間がとれるようになって感謝している。
- ・子どもが自分らしさを出せる場所ができ、安心に繋がった。
- ・親としても不登校を気にしすぎず、この子にとっての最善を考えられるようになった。
- ・学校に行かない日の昼食がとても負担だったので、本当に有難い。
- ・心の余裕ができた。
- ・子どもの成長が見えるため、子どもの力を信じて待つことができるようになった。
- ・様々な体験を共にできることで、親子共に楽しみが増えた。
- ・ゆめまあるに通うことを認めることで、親への信頼も増してきた気がする。
- ・子どもに思いやりや喧嘩したり共に挑戦できる仲間が出来たことが嬉しい。
- ・親子共に生活のペースが出来てきて気持ちの安定に繋がっている。
- ・食事提供で栄養面・金銭面での負担が減った。
- ・子どものまるごとを受け入れてもらえ、感謝している。
- ・苦手の多い子どもも一人ひとりに合理的配慮をしていただき、安心して通わせられる。

●今後「ゆめまある」に期待すること

- ・学習支援
- ・出席認定
- ・送迎
- ・公的に認められて無料になること
- ・この居場所がずっと続いてほしい

アンケート結果や日々の会話から、今後の課題をしっかりと受け止め、子どもと親の気持ちに寄り添いながらよりニーズに合わせたよりよい活動ができるよう努めていきたい。